

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

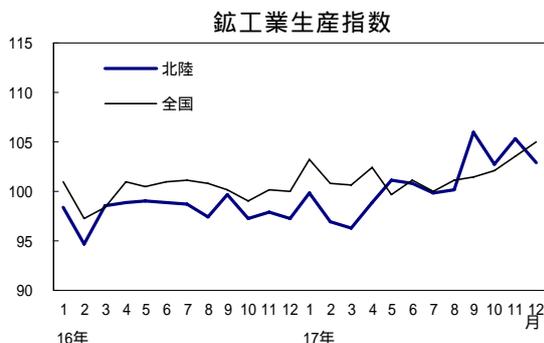
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 11 月）	今回（平成 18 年 2 月）	
景況判断	緩やかに回復している	回復している	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	減少	増加	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、半導体製造装置が、国内外の半導体メーカーのおう盛な設備投資需要を受け、好調に推移するとともに、金属工作機械、金属加工機械がおもに自動車関連向けを中心に好調に推移したことから、増加している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路が堅調に推移したものの、おもに年末商戦向けに増産を行ってきた反動から、減少に転じている。化学は、界面活性剤に動きがみられたものの、プラスチックが弱含んで推移したことから、おおむね横ばいとなっている。繊維は、非衣料品が自動車内装材や電磁波遮断材を中心に堅調に推移するとともに、一部衣服類に動きがみられたものの、ナイロンやポリエステル製の化学合成繊維織物が弱含んで推移したことから、減少している。金属製品は、住宅用、ビル用ともに弱含んで推移したことから、減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成 17 年 12 月の北陸は速報値。

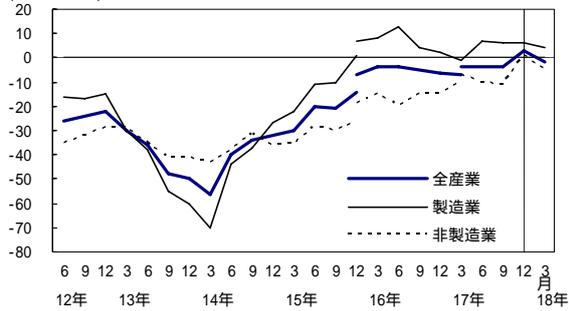
#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
一般機械	14.8	4.0	13.9	-	-
電子部品・デバイス	13.8	10.3	4.7	-	-
化学	12.7	1.7	1.0	-	-
繊維	12.4	2.2	0.6	-	-
金属製品	10.6	2.6	1.6	-	-
鉱工業	100.0	1.8	1.6	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10～12月期は速報値。  
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

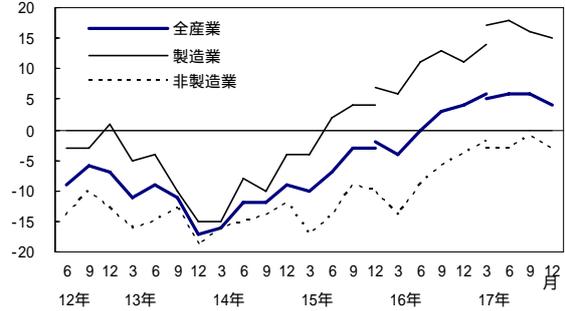
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



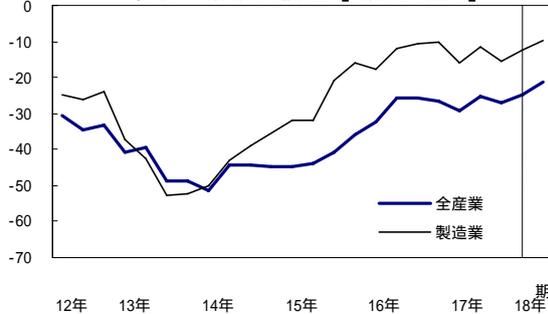
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年3月は予測。  
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。  
中部地区。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「原材料の値上げ等の影響で価格は変動したが、現時点で受注価格は落ち着いている(プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

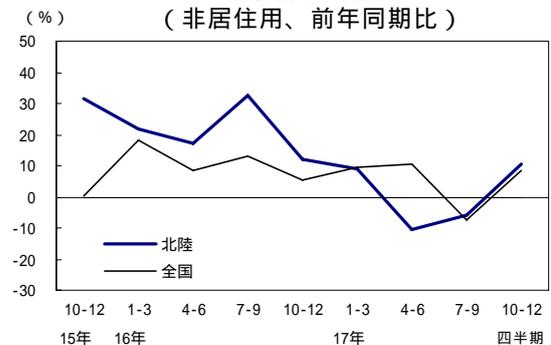
(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	17.5	9.3 ( 0.4 )
製造業	35.6	6.4 ( 1.4 )
非製造業	5.7	14.9 ( 4.0 )

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

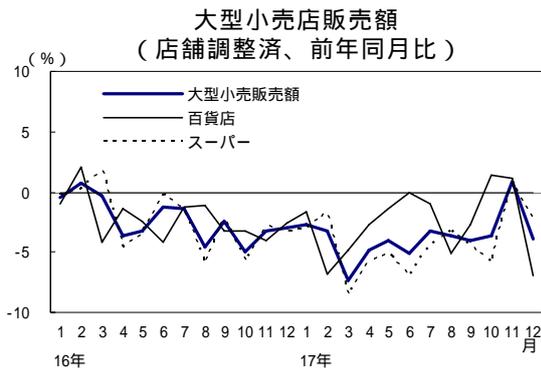
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、衣料品が前年を下回ったものの、催事効果などから飲食料品、その他が前年を上回ったことから、全体でも20か月ぶりに前年を上回った。11月は、気温の低下に伴い、冬物衣料品が好調だったことから、全体でも前年を上回った。12月は、中旬以降の大雪の影響により来客数が低下したことなどから、前年を下回った。

スーパーは、11月に、衣料品が10か月ぶりに前年を上回ったことなどから、全体でも20か月ぶりに前年を上回ったものの、12月には、再び前年を下回った。

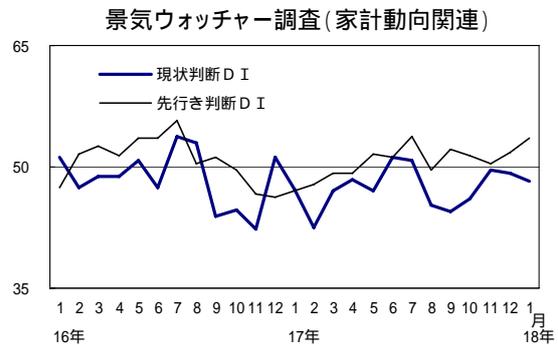
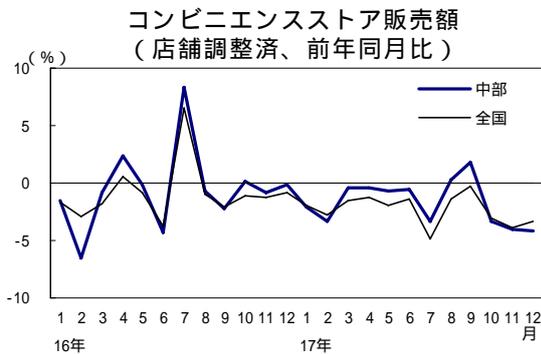
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「12月は異常な冷え込みにより冬物商材の販売点数は増加したが、1月はその反動もあり、販売量は3か月前に比較して下回った。しかし、食品における買上点数の動向は変わらず、全体としては良い状態が続いている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.3	4.6	3.6	2.4
百貨店	4.3	1.4	2.7	2.2
スーパー	4.3	5.9	4.0	2.4
コンビニ	1.9	0.5	0.5	3.9
景気ウォッチャー	45.6	48.9	46.8	48.3

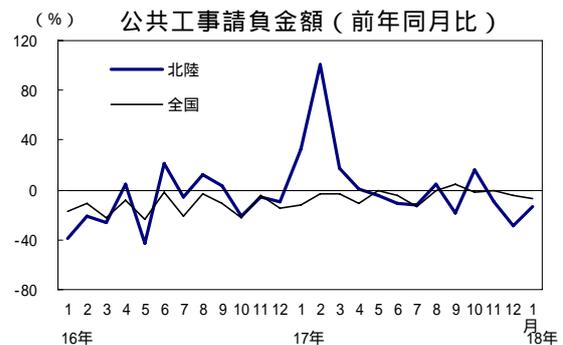
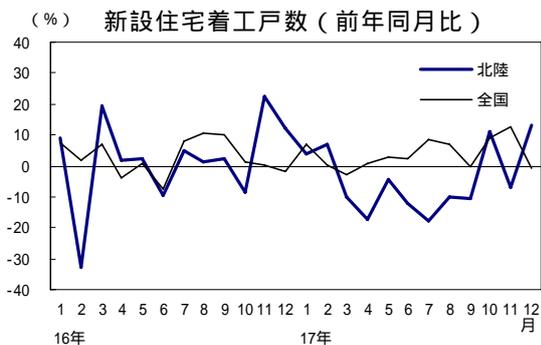
(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。17年10-12月期は速報値。  
コンビニは店舗調整済。中部地区。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

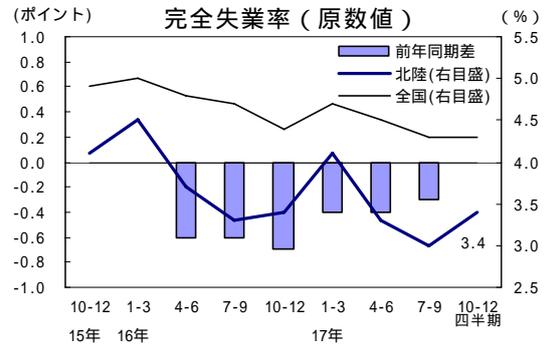
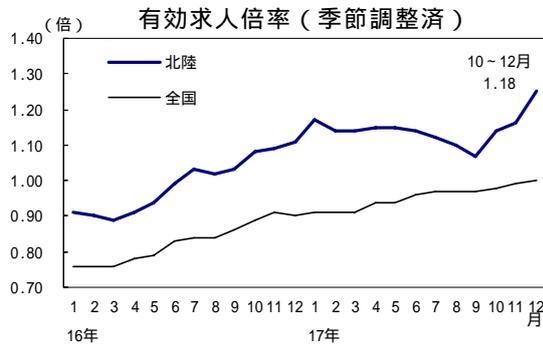


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

「最近5か月では在職中の求職者が前年比で50%前後増加している。労働条件の良い会社への転職希望と思われ、純然たる失業者が減少している（職業安定所）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	71	52	74	77	22
（前年比）	29.7	44.7	1.3	16.7	24.1
負債総額	385	126	164	153	58
（前年比）	28.6	42.2	61.7	52.3	83.1



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・昨年末からの大雪によるキャンセルや雪害についてのマスコミ報道による風評被害もあり、来場者数は前年に比べて約3割減少した（テーマパーク）。

<先行き>

・大雪のため暖房用品などへの支出が増加したが、逆に春を待ちわびる気持ちが強くなり、化粧品や生活雑貨など進入学の関連用品への関心が高い（その他専門店 [医薬品]）。

景気ウォッチャー調査（合計）

